

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第7部門第1区分  
 【発行日】平成17年3月3日(2005.3.3)

【公開番号】特開2003-133036(P2003-133036A)  
 【公開日】平成15年5月9日(2003.5.9)  
 【出願番号】特願2001-324698(P2001-324698)  
 【国際特許分類第7版】

H 0 5 B 6/06

G 0 3 G 15/20

H 0 5 B 6/14

【 F I 】

H 0 5 B 6/06 3 6 9

H 0 5 B 6/06 3 9 3

G 0 3 G 15/20 1 0 1

G 0 3 G 15/20 1 0 9

H 0 5 B 6/14

【手続補正書】

【提出日】平成16年3月31日(2004.3.31)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0043】

半導体スイッチング素子123のオン・オフ駆動を制御するPWM信号は、図5に示すようにPWMユニットの構成要素であるタイマーユニット128c、比較ユニット128dにおいて、スイッチング周期はタイマーユニット128cのタイマ周期レジスタTM×PRに周期値を設定し、オン・オフ比率は比較ユニット128dのT×CMPRレジスタにその比較値を設定することで生成される。具体的には図に示すようにTM×PRにカウント値として0h~FFFFhを設定すると、それがPWM信号の1サイクルとして定義される。ここで、オン・オフ期間をどのレベルで設定するかは比較値であるT×CMPRに同様にカウント値として0h~FFFFhの間での値を設定することによってなされる。この図においては周期をTM×PR=10として設定し、比較値T×CMPR=5とした場合にはデューティ50%のPWM信号が生成され、周期TM×PR=9、比較値T×CMPR=11とした場合には全期間オフ期間として設定されることを示す。

(この図では簡単のためタイマ周期値は小さい値としてあるが、実際には最大電力時の最大オン幅を最大周期：FFFFhとなるよう設定する)。